

国立公園大国「日本」における自然と調和した  
非日常体験型宿泊「グランピング」による  
地域観光振興のさらなる促進

2019年4月17日  
株式会社VILLAGE INC  
代表取締役 橋村和徳

# 背景

周囲に何も無い大自然の中にテントを張って、日常から隔絶された環境で贅沢な時を楽しんで貰う。地域の人からすれば当たり前すぎて1円の価値も感じられないようなところに、快適な環境とちょっとした特別感を取り入れることで、5万円を出しても泊まりたいと思う人たちが世の中にはたくさんいます。(リゾートホテルや都心の高級ホテルよりも高い金額だったりする！！)

## 【海外グランピングの先進事例】

### ○オーストラリア エアーズロック

〈LONGITUDE131〉

国立公園にあるサファリテントをモデルとした宿泊施設。1日15組限定、最低2泊以上が条件。

1室2名2泊 約52万円

### ○タンザニア ンゴロンゴロ保全地域

〈The Highlands〉

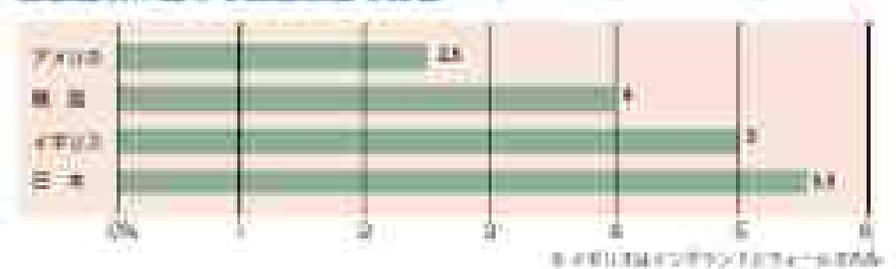
巨大クレーター内に立地。約25,000頭の野生動物が生息。山の斜面に建つドーム型テントは8つ。

1室2名1泊 約12万円～約23万円

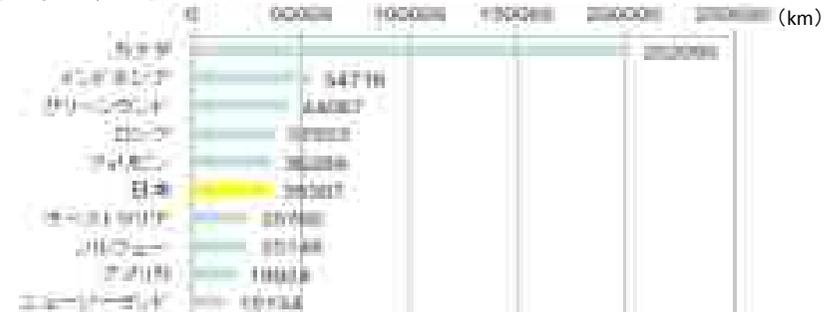
## 【日本を取り巻く自然環境】

日本の自然はトップクラスであるという事実！

国土面積に占める国立公園の割合（H17年度）



海岸線の長い国・地域ランキング



〈出典〉環境省HP

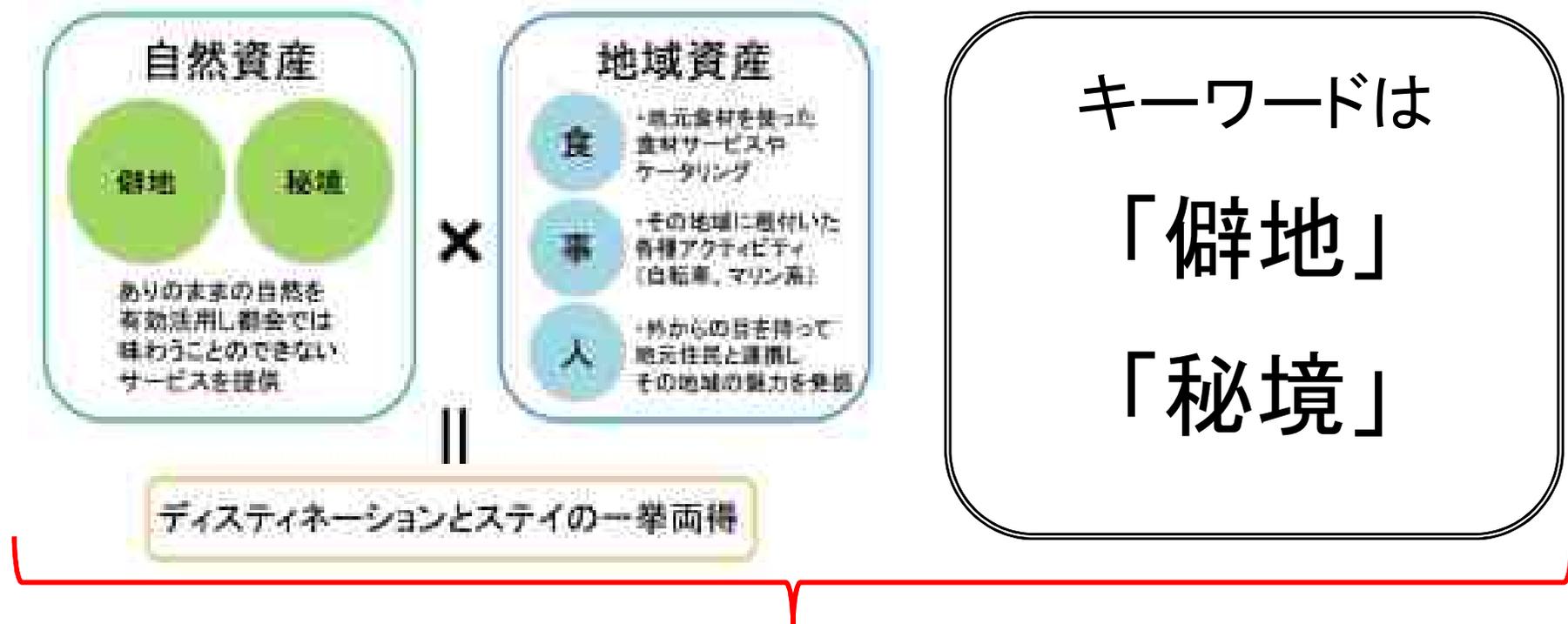
# 富士箱根伊豆国立公園内における実例



- ★2011年開業、1日1組、船でしかいけないグランピングフィールド。
- ★ハイシーズンの7月-10月は平日も含め、毎年全日予約で埋まっている状況。  
→年間5千人を西伊豆町田子漁港より送客
- ★現在客単価は、1名あたり1泊25,000円～で1組あたり平均30名の来場。
- ★うち年間300名は外国人で顧客単価も日本人より高いのが特徴。  
→日本人リピーターが多く、全体の1割程度しか受け入れられていない。

# 自然泊のポテンシャル

- このようにグランピングは大自然であればあるほど価値が高い。
- 海外でも富裕層を中心に人気。
- 日本は国立公園に代表されるように、豊かな自然が非常に多い。
- 日本の国立公園は、世界と比較してもまさにインバウンドにとって宝の山。



まさに『何もないけど何でもある』

# 国立公園内における事業化の現状と提言

## 現状

- グランピングはまだまだ広まっているとはいえない状況で**宝の持ち腐れ**である。
- 国立公園の中でビジネスを始めて7年あまりになるが、まだまだ国立公園は**保護に主眼**を置いている。
- 実際に活用しようとしても、都度、複数の管理者に民間が横串で相談しなければいけないことが多く、かつ自治体によって対応がマチマチで**機会損失**が大きい。

## 提言

- ① 国立公園における民間活用やグランピング施設の設置については、自治体任せにするのではなく、国から自治体に対してしっかり指針を示すべき。
- ② 国立公園満喫プロジェクトについても、先行8公園はステップアッププログラムが策定されているが、その他26公園でも積極的な民間活用プログラムを策定すべき。

弊社が拠点を構える富士箱根伊豆国立公園は最も外国人が多いにも関わらず、地の利もある伊豆半島は先行事例の対象外となっている。  
まさに宝の持ち腐れ。